

## ○北海道羅臼町

### Kプロジェクトへの思いと羅臼町のESD

羅臼町長 湊屋 稔・教育長 山崎 守

#### 1. 羅臼町長として

平成27年の統一地方選挙において町民の信託を頂き、羅臼町長に就任し、町政を担当させて頂いている。その時の行政方針で、その責任の重大さを痛感し、私の愛してやまないここ「知床らうす町」という船の船長として舵を持たせてもらうことになった。町民という多くの乗組員の安心・安全を確保しながら「幸福」への航海が始まることへの期待感と覚悟をさせて頂き、先人の築かれてきた歴史ある羅臼町の町長として、責任を持って預かり、町民の幸福のために全力を尽くす覚悟を決めた。

#### 2. まちづくりの基本姿勢（Kプロジェクト）

##### ・キャッチフレーズ『想像から創造へ』

将来の羅臼町を想像（イメージ）して頂くことから始めた。そこで、町内会単位で町長との座談会を開催してきた。膝を交え、お互いの立場で悩みや将来への不安や希望など、腹を割って語り合い、町民の皆様と羅臼町の課題や今後の在り方について共通の認識が持てるようにしてきた。また、町内の各種産業団体や経済団体等とも羅臼の将来について語る機会を設けてきた。

##### ・Kプロジェクトとは？

対話後、羅臼町民が幸福になるための『Kプロジェクト』として『知床らうすの未来を考えるアンダー60創造会議』と『知床らうすの未来を支えるオーバー60協力隊』を設立した。

私の考えた『Kプロジェクト』のイメージは、それぞれの行動目標を「K」の頭文字で表している。『知床らうすの未来を考えるアンダー60創造会議』では、これからの羅臼町の未来を60歳以下の町民で考え、実践していくことにした。

この創造会議への参加資格は60歳以下の町民、もしくは知床らうすをこ



よなく愛する人であるということだけである。まず登録をして頂き、自分の興味のあるテーマによって自由に参加できるようにした。最初のテーマは、羅臼町のスポーツと花などの見直しをし、その後は、会議の中で出た様々な課題や問題点や夢や希望などをテーマとし、開催してきた。

この創造会議では、自分たちの未来は自分たちで考えるということに「気づき」、同じ志を持った仲間が集い「結束」し、しっかりと「計画」をたて、自ら「行動」し、「結果」を出し、それを「検証」して次に生かしていくこと、すなわち「継続」をするといった7つの『K』を頭文字にした行動目標をかかげ活動することで、町づくりへの参加意欲と自主性、公共性のもと、新たなリーダーの輩出を期待するものである。

『知床らうすの未来を支えるオーバー60協力隊』では、アンダー60創造会議で話されたことを伝え、助言・提言を頂くと共に若い世代の応援団として「後援」を貰い、共に活躍「協働」し、経験に裏付けされた良き習慣や歴史や技術、大自然の中で生きていくための知恵など、次世代を担う若者たちに「継承」して頂きたいと考えた。

このような「機会」の提供を通じ、町民の皆様には自分の町のことは自分たちで考え、創りあげていくといった意識を持って貰うことを希望した。

行政としても、すべてお任せするのではなく、必要なものや効果の期待できるもの、すばらしいアイデアなどには積極的に助成「公助」していくものである。最終的な「決断」と責任は当然、町長である私にあることは言うまでもない。それぞれの世代や立場を理解しあい、共に活動することで「絆」を深め、「郷土愛」を育み、知床らうすの生き物と共に暮らし素晴らしいフィールドを通して、未来を「創造」していくことを願っているものである。

『幸福』と感じる物差しも、人により持っているスキルや経験もそれぞれ違うわけだから、お互い協力し、尊重しあい、善意をもって行動していく町民の「心」こそが、まちづくりの基本にあると思っている。

### 3. 終わりに

国は、経済対策という方針のもと地方創生や子育て支援等様々な政策を打ち出しているが、中央大都市圏では、株価の上昇や円安によるインフレ傾向により、景気が上向いていると言われているが、地方では景気が良くなっているといった実感があまりない。私たちの住む地方自治体を取り巻く環境の厳しさも、まだまだ続いている。

また、近年の気候変動による漁獲高の激減は、日本の海を取り巻く資源管理の問題が私たちの海にも影響し、それが結果として羅臼町の存続の危機的状況とも思われるし、この「Kプロジェクト」を実践することにより、それを検証し、更に効率的にまた、効果的に作用するよう取り組んでいきたい。

このような考え方を通して、子どもたちへのESDの取り組みが「立教大ESD地域連携」や「東京大学海洋アライアンス海洋教育研究センター」との連携につながるものと確信している。